

豊商事株式会社

平成23年3月期第2四半期累計期間(連結)決算
会社説明資料



豊 商 事 株 式 会 社



会社概要

創立	昭和32年1月17日
資本金	17億2,200万円（平成22年9月30日現在）
代表者	取締役社長 石黒 文博
事業所	本店・11支店
従業員数(連結)	361名（平成22年9月30日現在）
取引銀行	三井住友銀行、みずほ銀行、西日本シティ銀行、りそな銀行
関係会社	YUTAKA SHOJI SINGAPORE PTE.LTD ユタカエステート株式会社 ユタカ・フューチャーズ株式会社 ユタカ・アセット・トレーディング株式会社



沿革 (1)

- | | |
|----------|---|
| 昭和32年 1月 | 豊商事株式会社を福岡市天神町55に設立 |
| 昭和36年12月 | 本社を東京に移転する |
| 昭和46年 1月 | 登録制から許可制への移行に伴い、農林大臣及び通商産業大臣
(現 経済産業大臣)より商品取引員(商品仲買人から名称変更)
としての許可を受ける(17商品取引所22商品市場) |
| 平成元年 3月 | 三菱商事株式会社と業務提携 |
| 平成 2年 2月 | YUTAKA SHOJI SINGAPORE PTE. LTD設立 |
| 平成 3年 4月 | ユタカ・フューチャーズ株式会社(東京)設立 |
| 5月 | 日本商品投資販売業協会(旧日本商品ファンド協会)加入 |
| 10月 | 豊不動産株式会社を吸収合併 |
| 12月 | 金、プラチナ積立販売開始 |
| 平成 7年10月 | 商品ファンド運用法人認可 |
| 平成 7年11月 | 株式を店頭公開
(証券コード8747:ジャスダック証券取引所
(現 大阪証券取引所ジャスダック市場)) |
| 平成 9年 2月 | 東京金融先物取引所(現 株式会社東京金融取引所)加入 |



沿革 (2)

平成12年 7月	オンライン店頭外国為替証拠金取引「e-kawase」開始
平成16年 9月	国内初の信託型・オープンエンド型商品ファンド 「ユタカ・オープン・トラスト」運用開始
平成17年 7月	改正金融商品取引法に基づく金融先物取引業の登録
平成18年 2月	プライバシーマーク認証を取得
4月	取引所為替証拠金取引「くりっく365」開始
平成19年 1月	創立50周年
平成19年 7月	ユタカ・アセット・トレーディング株式会社設立



加入取引所

- | | | |
|----|---|-----------|
| 国内 | 東京穀物商品取引所 | 関西商品取引所 |
| | 東京工業品取引所 | 中部大阪商品取引所 |
| | 東京金融取引所 | |
| 海外 | Singapore Commodity Exchange
(海外子会社加入) | |



事業内容

商品先物取引

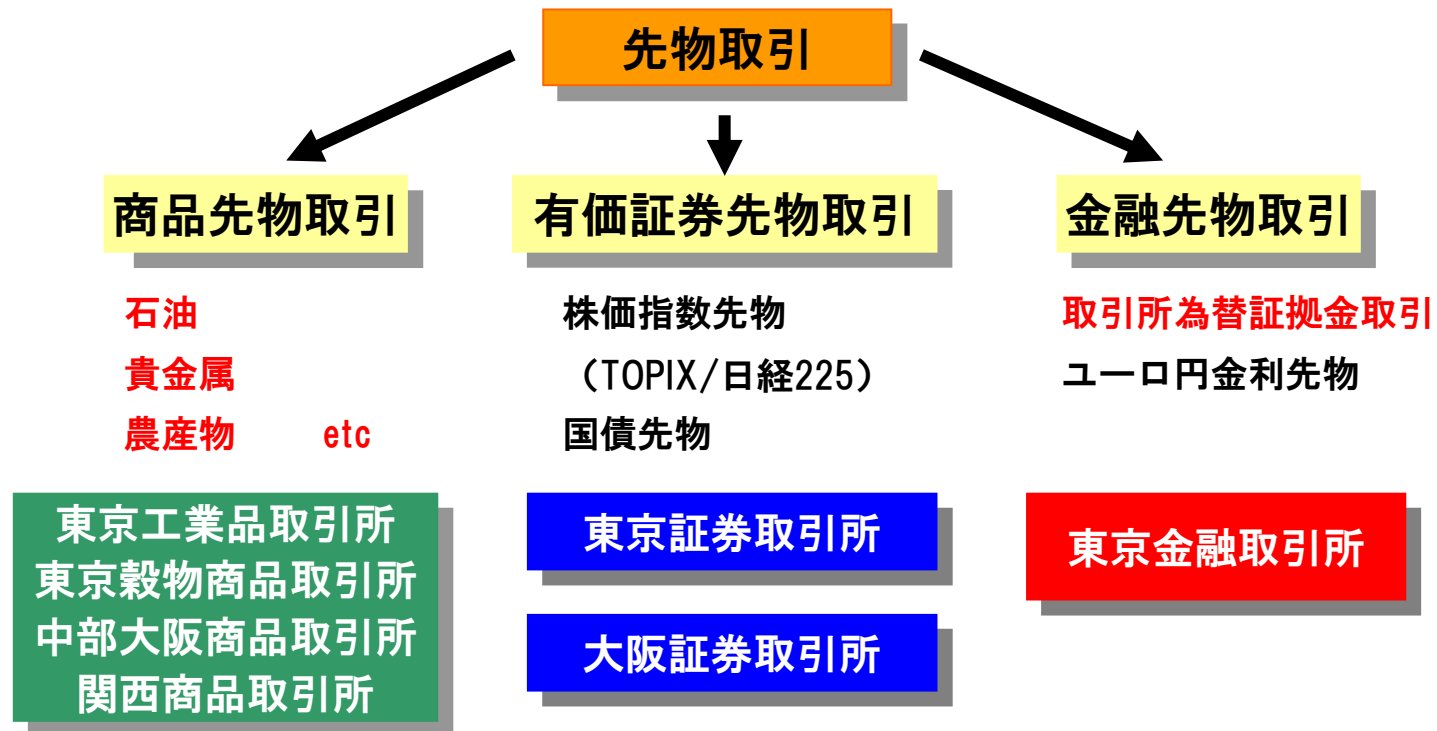
商品ファンド

F X取引：取引所為替証拠金取引(商品名：「Yutaka24」)

貴金属現物販売業務

当社オリジナル商品(「金庫番」「プラチナ倶楽部」)の販売

日本で行われている先物取引





商品先物取引

商品先物取引とは「将来の一定期日に、取りきめた値段で取引することを約束する取引」です。

主たる商品先物取引の機能として下記の3つがあります。

「リスク・ヘッジ機能」

農作物の生産者や原油を輸入する商社などが、価格が値上がりや値下がりするリスクを回避（ヘッジ）する手段として利用しています。

「資産運用機能」

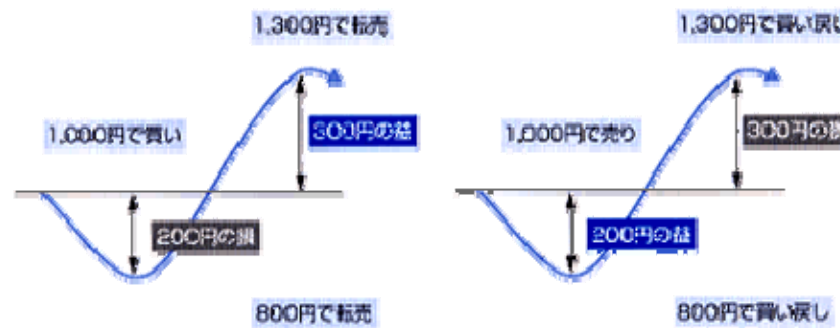
金融派生商品（デリバティブ）として、株式や土地などと同じように商品先物は、法人や個人の資産運用の有益な手段ともなっています。

「価格形成機能」

天候や経済情勢により、高いか安いかどちらか一方によってしまった商品の価格を、先物取引を利用することで需要と供給の調整を生み、公正な価格を形成することとなります。

先物取引の仕組み

商品先物取引で特徴的なことは「約束の期日を持って物の受渡しを行うこともできるし、また約束の期日以前ならば、いつでも、その時点の価格ではじめの取引とは反対の売買を行うことによって当初の「買い」又は「売り」の契約を解消し、品物の受渡しをしないで、差金決済するだけで取引を終了させることもできる取引」であることです。最初買い付けるだけでなく、途中で買い戻して差金決済すればよいのですから、品物をもっていなくても「売り」から取引を始めることができます。買い付けたものが値上がりしたときに転売すれば買値と売値の差が利益となり、売り付けたものが値下がりしたときに買い戻せば利益となります。（逆の値動きの場合は損失となります。）つまり「買い」から始めても「売り」から始めても、買値より売値が高くなれば利益が生じます。このように商品先物取引では、値上がりだけでなく値下がり局面でも利益を追究することができるのです。



上場商品の種類

農産物 とうもろこし 大豆 小豆 コーヒー豆

エネルギー 原油 ガソリン 灯油

貴金属 金 銀 白金 パラジウム

その他 粗糖 ゴム 冷凍えび

商品指数(コーヒー・飼料)

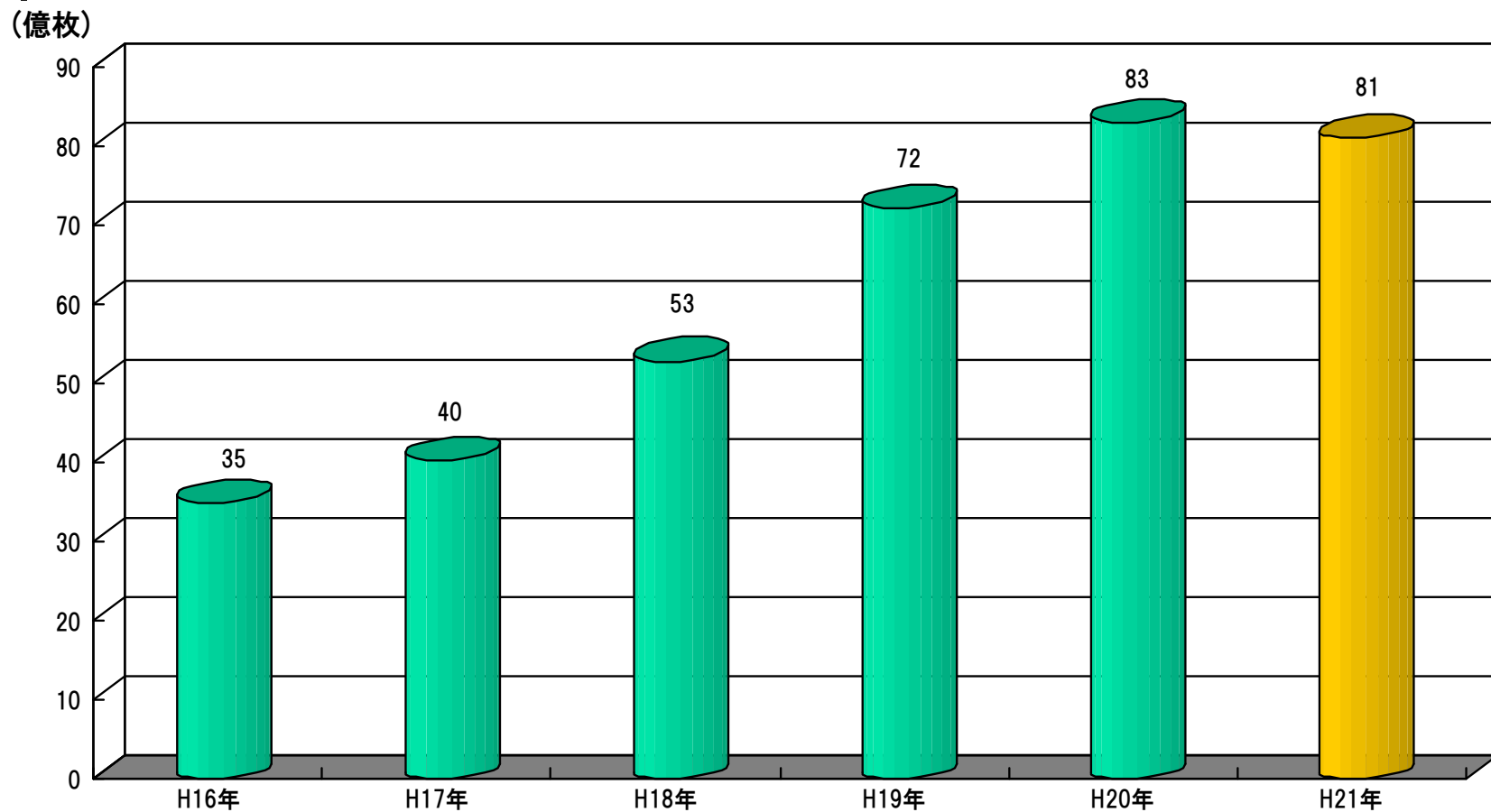
日経・東工取商品指数 (TOCOM NEXT)



何故、今「コモディティ」が注目されているか

- ①世界的な人口の増加
 - ②BRICs(ブラジル・ロシア・インド・中国)の経済発展
 - ③イラン・イラク問題などの中東情勢 ⇒ 地政学的リスクの増大
 - ④温暖化・砂漠化の進行による環境破壊 ⇒ 穀物需給の逼迫
 - ⑤エタノール・バイオディーゼルなどの増産 ⇒ 新たな需要の出現
 - ⑥世界的なドル安・株安の進行 ⇒ 投機マネーの商品市場への流入
- } 需要の増加・拡大

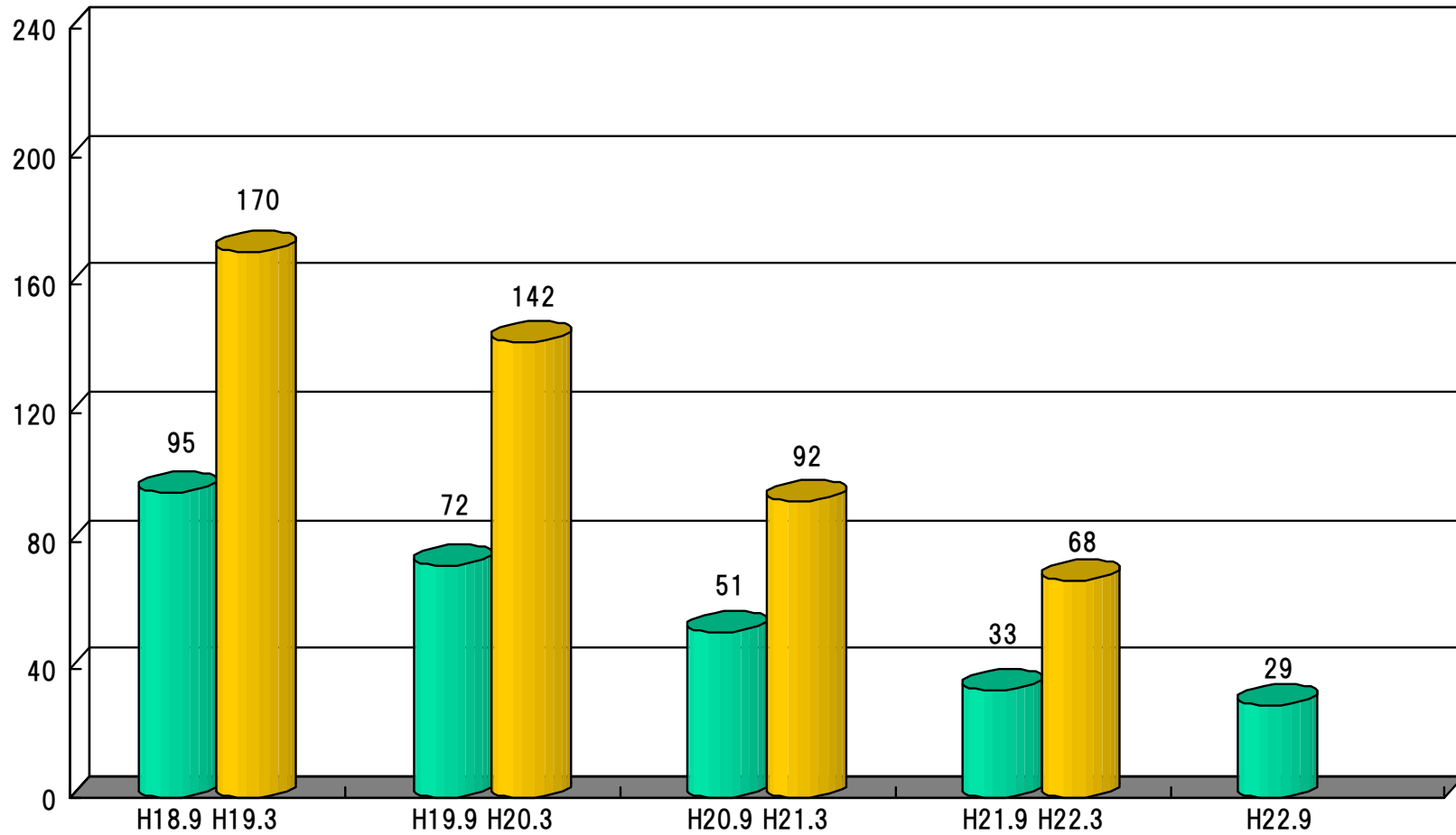
先物市場の出来高合計の推移(世界)



注)出典： 矢野経済研究所

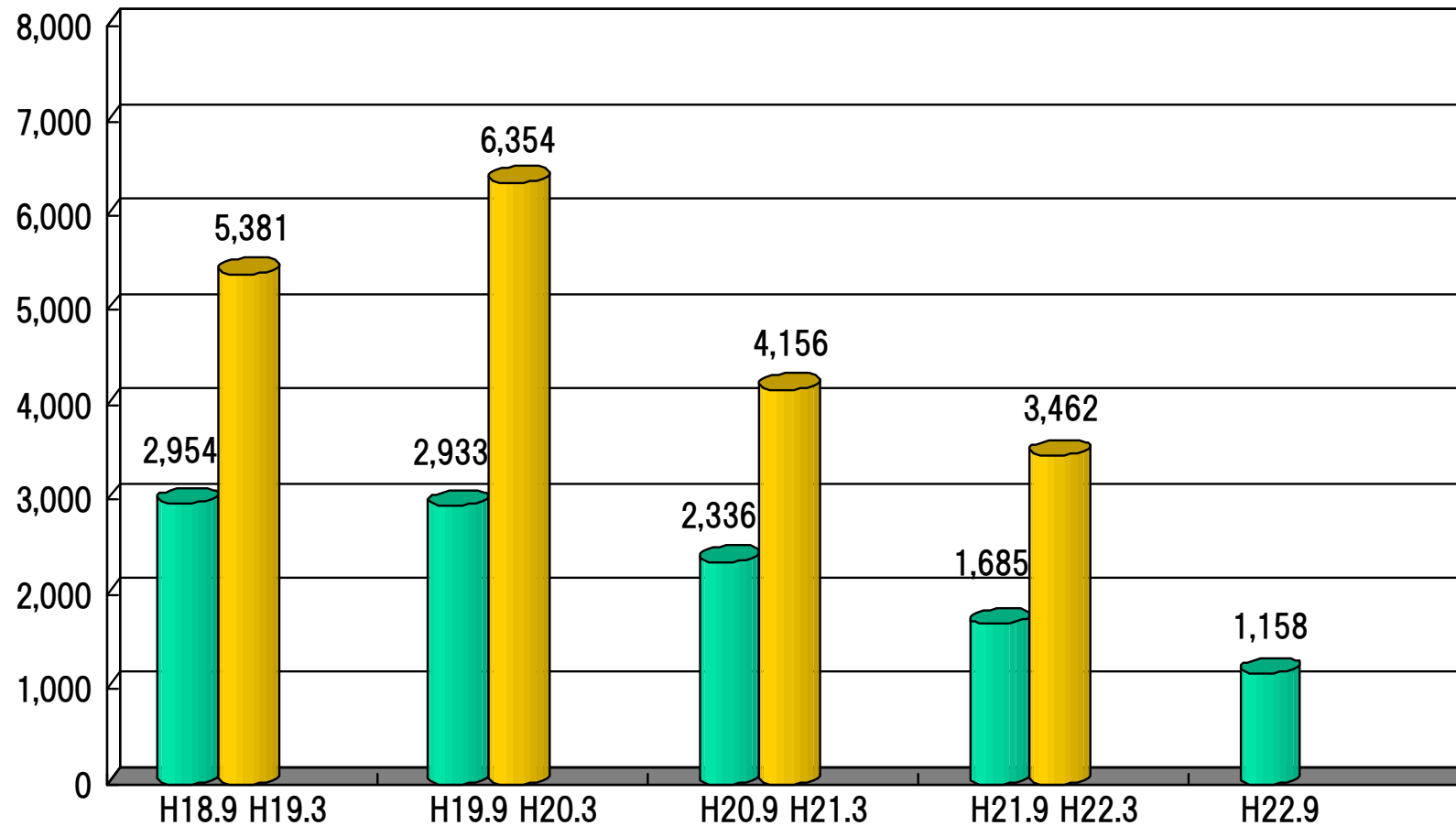
先物市場の売買高合計の推移(国内)

(百万枚)



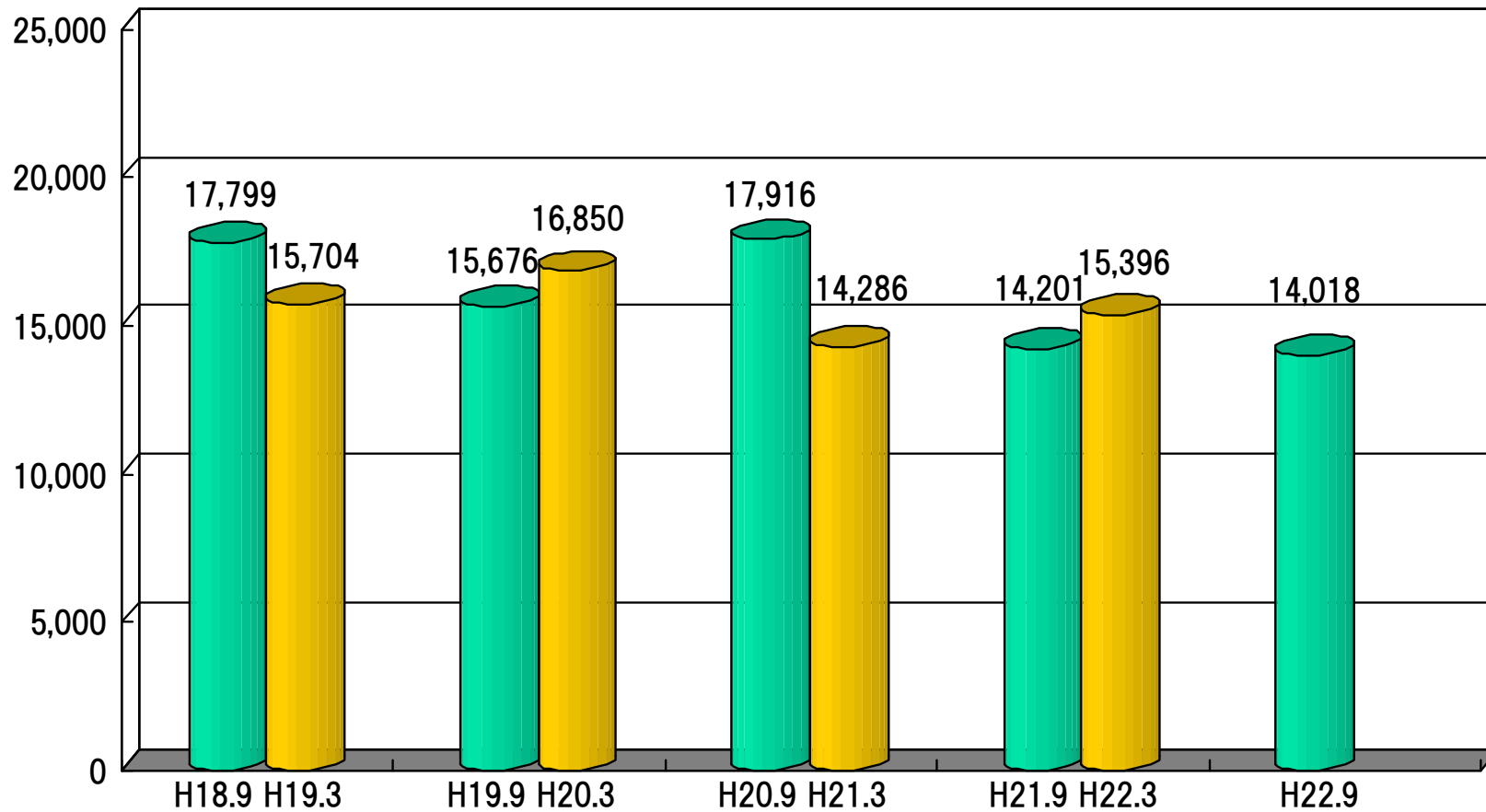
豊商事の売買高合計の推移

(千枚)



豊商事の先物取引預り残高の推移

(百万円)





何故、今「豊商事」なのか！

安心・信頼・安全 これまでもこれからもお客様第一主義

①コンプライアンスの徹底

金融商品取引法の施行前からコンプライアンス重視の経営姿勢。
勧誘規制が強化されても左右されることのない経営。

②「情報の質」の追求

誰もが知っている情報を様々な角度から分析し、役に立つ情報
に変えてお客様にお届けする。

③フェイス to フェイス

インターネットによる取引が主流になっていく中で、対面営業
を主として取引の仕組みやルールをお客様がしっかりと理解し、
安心して取引を行える。



プロによる相場のレポートからセミナー
まで動画配信による投資情報の提供

Yutaka Market TV

【 <http://www.yutakamarket.tv/index.php>】

おはようFX / おはようFXイブニング

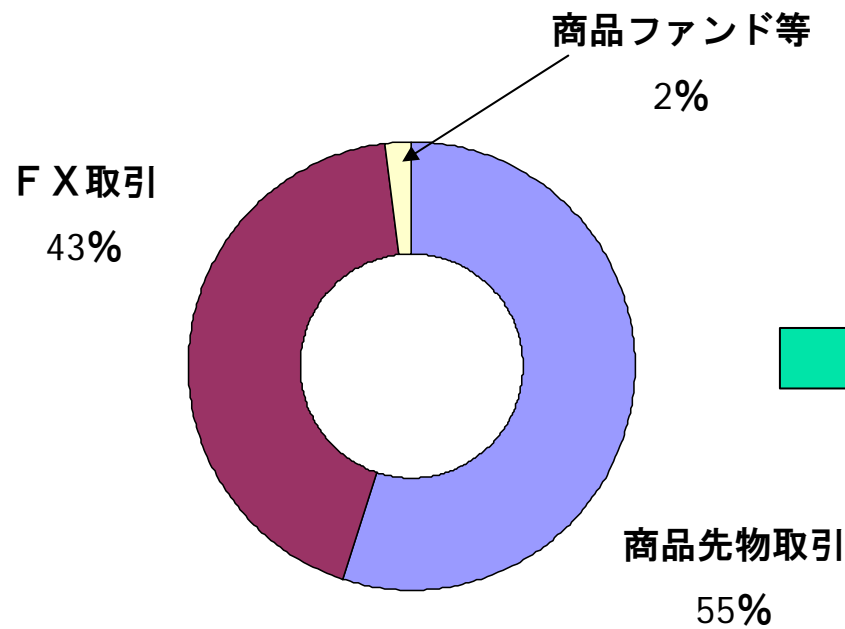
【 <http://www.yutaka24.jp/seminar/fx.shtml>】

金融セミナー (FX)

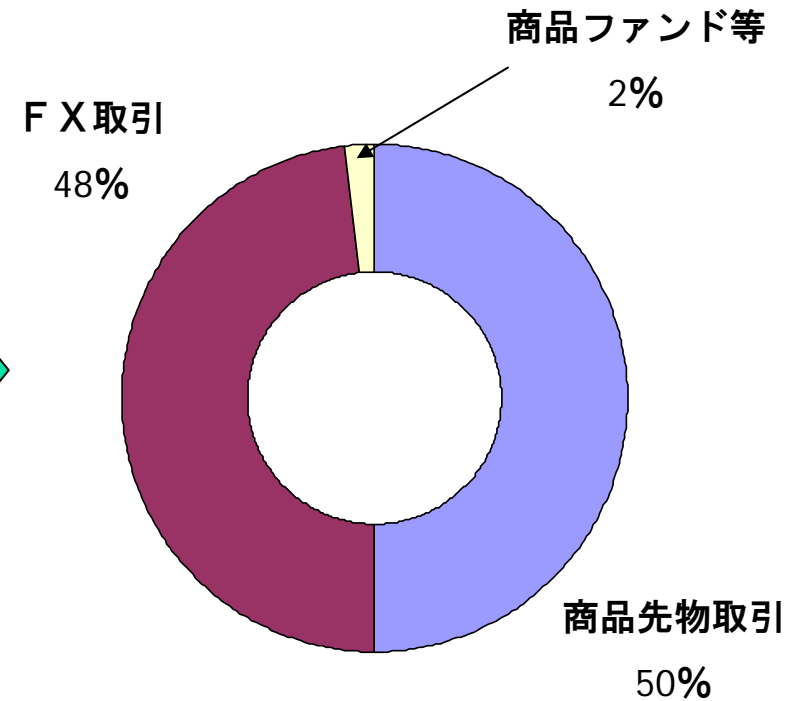
【 <http://www.yutaka24.jp/?url=/seminars>】

豊商事の収益構造

現在の収益構造図(平成22年3月期)



今後の目標収益構造図





FX取引

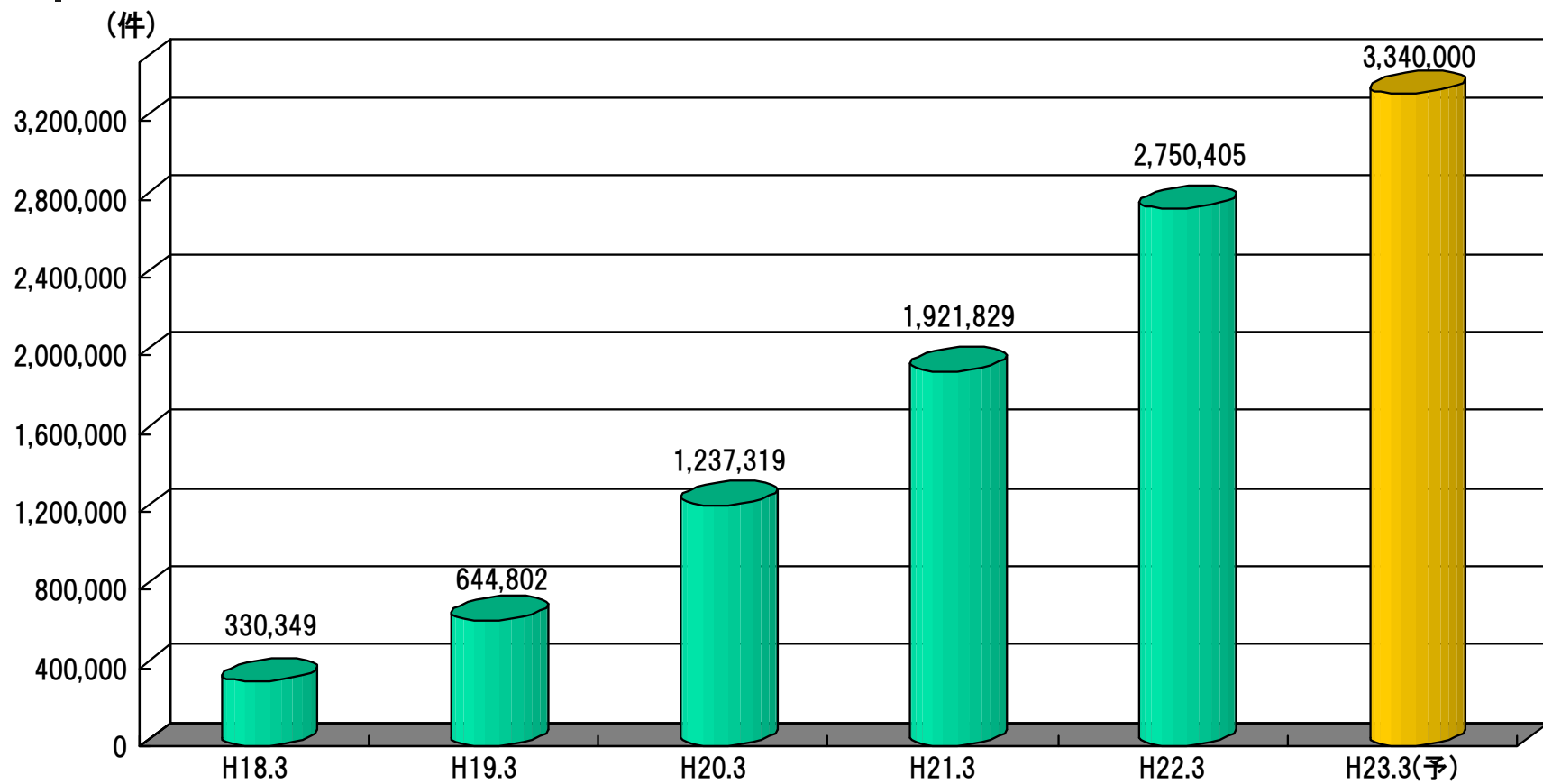
FXとは通貨の売買を行う「外国為替取引」と「証拠金取引」がセットになった新しい金融商品。

外国為替取引とは、通貨を売買することで利益を狙う取引で、先物取引と同じように「安いときに買って高く売る」ことで利益になるだけでなく、「売り」から始めても、買値より売値が高くなれば利益が生じます。（逆の値動きの場合は損失となります。）

さらに、金利の高い通貨を買えば、保有期間中に「スワップポイント」という金利調整分を受け取ることもできます。

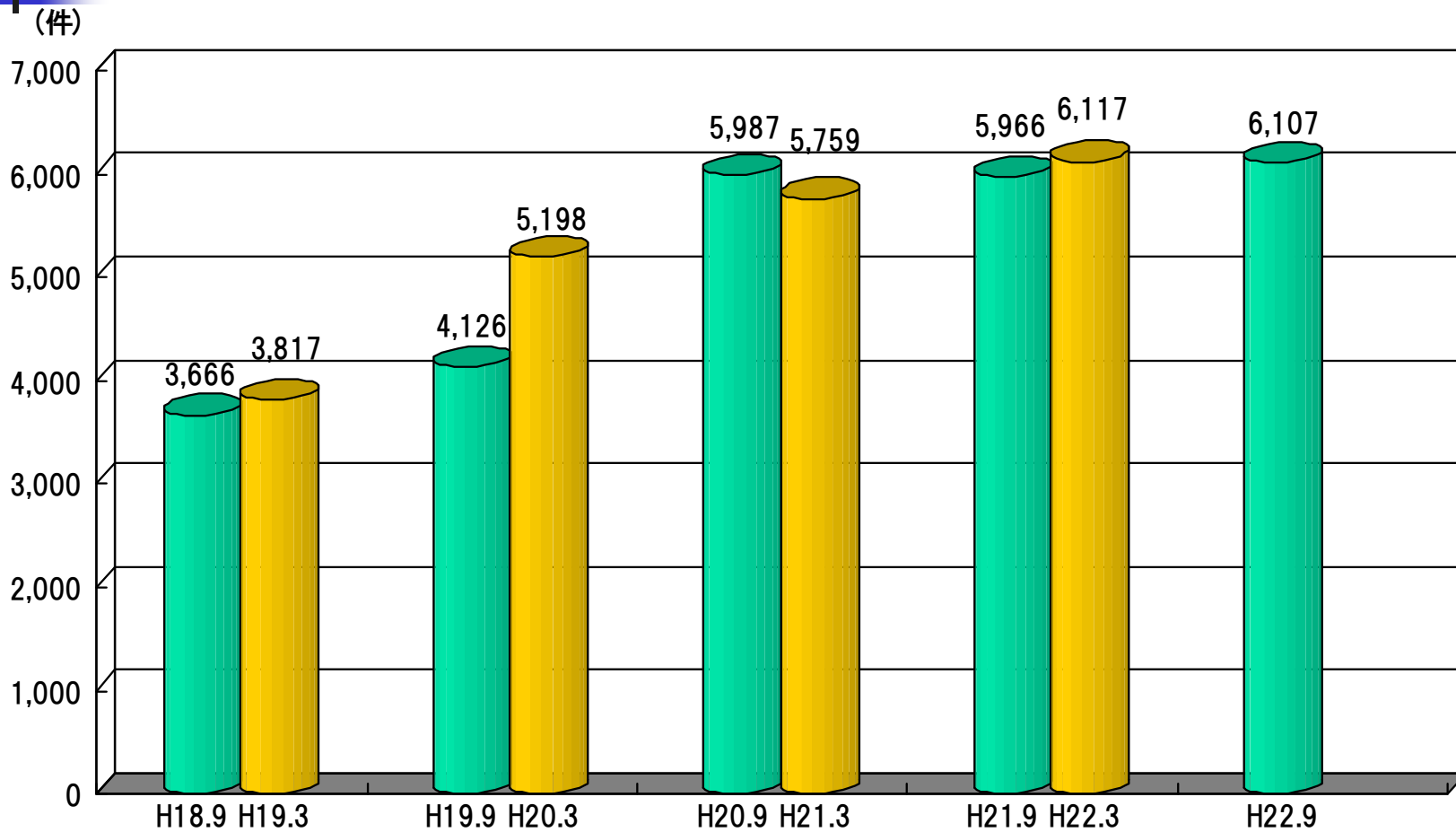


FXの口座数推移(国内)



注)出典： 矢野経済研究所

豊商事のFX口座数の推移



最近5事業年度第2四半期累計期間（連結）の主要経営指標の推移

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月日	平成18年9月	平成19年9月	平成20年9月	平成21年9月	平成22年9月
営業収益 (千円) (うち受取手数料)	5,628,600 (4,250,366)	3,709,102 (2,814,119)	3,345,357 (2,172,186)	2,152,239 (1,950,846)	2,194,596 (2,054,756)
経常利益 (千円)	2,009,704	538,169	486,634	△ 472,356	△ 249,398
四半期純利益 (千円)	1,130,799	288,079	266,500	△ 251,391	△ 179,523
純資産額 (千円)	11,473,297	10,866,924	11,305,561	10,356,938	10,101,710
総資産額 (千円)	45,138,827	40,302,705	42,582,902	37,343,328	33,677,810
1株当たり 純資産額 (円)	2,581.63	1,243.08	1,327.35	1,254.69	1,233.09
1株当たり 第2四半期累計純利益金額 (円)	256.29	32.91	31.20	△ 30.29	△ 21.78
自己資本比率 (%)	25.2	26.8	26.5	27.7	29.9

(※ H18.10.1 株式分割 1:2)

最近5事業年度(連結)の主要経営指標の推移

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月日	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
営業収益 (千円) (うち受取手数料)	8,582,202 (7,845,746)	7,811,404 (7,024,998)	8,399,966 (6,850,139)	5,090,303 (3,498,789)	4,683,953 (4,851,142)
経常利益 (千円)	1,751,447	1,281,593	1,634,812	△237,399	△431,100
当期純利益 (千円)	1,073,691	607,195	909,739	△260,945	△270,435
純資産額 (千円)	10,489,899	10,944,511	11,252,131	10,685,656	10,402,588
総資産額 (千円)	45,513,309	42,125,256	39,995,232	35,951,685	45,534,521
1株当たり 純資産額 (円)	2,365.33	1,233.64	1,307.80	1,279.57	1,259.30
1株当たり 当期純利益金額 (円)	231.20	68.86	104.92	△30.75	△32.70
自己資本比率 (%)	23.0	25.8	28.0	29.7	22.8

(※ H18.10.1 株式分割 1:2)